

## 1 国文化財に指定・ユネスコ世界遺産センターに推薦へ

12月6日（金）に開催された国の文化審議会（会長：渡邊明義・独立行政法人文化財研究所理事長）でユネスコの世界遺産暫定リストに記載されている「紀伊山地の霊場と参詣道」を世界遺産に推薦することが正式に了承されました。これを受け政府は、世界遺産条約関係省庁連絡会議を開催し推薦を決定した後、来年の2月1日までに外務省を通じて、ユネスコ世界遺産センターへ推薦書を提出する予定です。世界遺産への推薦が正式に了承されたことで、平成16年の世界遺産登録に向けて大きく前進したことになります。

なお、三重県の世界遺産の資産については、14年11月15日の文化審議会の答申により、世界遺産に係る熊野速玉大社境内の一部である御船島（紀宝町）と熊野参詣道（伊勢路など）の2件が新たに国史跡として指定されており、法的保護の条件は既に整っています。

関係市町村も正式な推薦で期待を膨らませており、奈良県・和歌山県とともに、本県も市町村と連携して世界遺産をいかした地域づくりに取り組んでいくこととしています。

## 2 熊野古道アクションプログラム作成ワークショップ

熊野古道の保全の仕方や活用する方法について、基本方針と具体的な行動計画を明らかにするため「熊野古道アクションプログラム」が、現在取りまとめられています。その作成にあたり、幅広い意見を取り入れようと、民間・行政合わせて約100人のメンバーで構成されたワークショップが、8月22日から10月18日までに計4回開催されました。

ワークショップではまず、熊野古道の抱える課題を各人が提起し、「守る」「使う」「学ぶ」「招く」の4つのカテゴリーに分類。課題事項に対してそのあるべき姿を討議したうえで具体的な対応策を話しあいました。2回目からは、興味や実務上関係のある分野ごとに班編成をしたため、身近な話題から壮大な夢まで、参加者の思いが熱く語られ、時間が足りない人もみえました。

また、10月18日に開催された第4回目には、岐阜県白川郷から「荻町自然環境を守る会」代表の三島俊樹さんをお招きし、世界遺産登録後の地域の変化や発生した課題への対応策などの事例をお話いただきました。

現在、県地域振興部内の事務局が、ワークショップでの意見を集約して、関係者や専門家の意見を伺う作業が進められています。今後もワークショップを発展的に継続して、広く意見交換しながら、より実効性のあるものにとりまとめられていく予定です。

## 3 中部の千年遺産30選に熊野古道伊勢路が選ばれる

前号で読売新聞社の「遊歩百選」に「熊野古道」が選ばれたことをお知らせしましたが、今度は「中部の千年遺産30選」に選ばれました。千年遺産は世界遺産の中部版と位置付け、千年後の未来に伝えたい中部地方の自然遺産・文化遺産として公募し、中日新聞社が選定しました。

今回の公募総数は288件。その中から、三重県では熊野古道のほかに、「丸山千枚田」「真珠の養殖・加工技術」が選ばれました。

## 4 熊野古道世界遺産登録推進ウォーク第2弾終了

9月14日（土）ツヅラト峠ウォークから始まった世界遺産登録推進ウォークの第2弾が12月1日（日）の始神峠ウォークで終了しました。今回はほとんどのウォークを定員制にしたため参加者数は5回で518人とそれほど多くはありませんでしたが、申し込み開始からあっという間に埋まりました。今回のウォークのテーマは「古道と自然を体験しよう！」でした。自然観察や薬草観察・榎ヶ崎遊覧など、古道と合わせてこの地域の自然にふれていただいたと思います。次回は3月の「猪ノ鼻水平道」を皮切りに第3弾を行います。ぜひ参加してみませんか？



（10月5日曾根次郎坂・太郎坂にて）

## 5 世界遺産登録推進三県リレーフォーラムを開催

「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録推進三県リレーフォーラムが10月13日紀伊長島町で開催されました。世界遺産の意義、景観保全の大切さを訴えるを共通テーマに三県をリレーするフォーラムです。ユネスコの世界遺産候補として、国の暫定リストに2001年4月6日に記載されて1年半が経ちました。2004年6月の正式登録に向けた作業が三県で進められています。

最初に、史上最年少で7大陸の最高峰を制覇し、エベレストや富士山の清掃登山で知られるアルピニストの野口健さんが「世界遺産の自然環境を守る」と題した基調講演がありました。

1997年にはじめて国際隊の一員としてチョモランマに挑戦した際、日本登山隊のごみが沢山捨てられているのに驚いた。

その時、外国人に日本隊のマナーの悪さを指摘された。さらにヨーロッパでは「ヒマラヤをMt富士のようにするな。」という言葉があるほど。富士山の環境破壊は著しい。7大陸最高峰の挑戦を無事終えたら、チョモランマの清掃活動を是非始めようと心に決めたそうです。

チョモランマや富士山を人間はゴミで汚してしまっている。ゴミにまみれている大切な聖域を何とかしてみたいとアピールすることで、身の回りのごみや環境について考えようと訴えてきてみえます。

講演に続いて、「地域の宝物・世界遺産の保護と豊かな活用のあり方について」をテーマにパネルディスカッションがありました。

現在世界遺産リストに登録された遺産は125カ国730件あり、世界遺産とは、現代を生きる世界のすべての人々が共有し、未来の世代に引き継いでいくべき人類共通の宝物のことです。

そこには、国境という概念はありません。自国の文化と歴史を愛することは、他国の文化と歴史を理解し、尊重することへとつながっており、熊野古道を世界遺産にすることで平和の砦を心の中に築くのですと訴えられました。

知事からは、世界遺産リストに登録されることがゴールではなく、保護・保全のためのスタートラインと考えることが重要で、地域の皆さんと力をあわせて世界にメッセージを発信できる地域にしていきたいと話がありました。

おそどさんからは、当初障害を持った方の旅行先は、「行ける場所」を選んでいましたが、最近は「行きたい場所」へ行けるような旅行企画をたてています。工夫次第で熊野古道のようなバリアフルなところであっても旅は可能です。障害を持った方でも熊野古道へ行きたくなるようなところにしてほしいと提案されました。

1980年代以前と1990年代とは人々の環境問題への関心やその背景となる社会情勢が大きく異なっています。個人の意識や認識も当然個人差があります。これからは環境問題の解決が重要です。

環境問題への取り組みは、お金、時間、エネルギー、そして負担をも必要とします。しかしそれらを飛び越えて行動と発想に責任を持たなければ環境問題は解決しません。熊野古道の世界遺産登録を契機として自然と人との共存をテーマに責任ある行動を心がけていこうと訴えられました。

皆さんとともに世界遺産条約の意義や理念を正しく理解しながら、一人ひとりが熊野古道の保護・保全、その活用にどう関わっていくべきか考えていきましょう！



### コーディネーター

内田 種臣さん（早稲田大学教授・熊野文化研究所初代所長）

### パネリスト

おそど まさこさん（トラベルデザイナー）

野口 英雄さん（都留文化大学大学院教授）

野口 健さん（アルピニスト）

北川 正恭さん（三重県知事）



## 連載（第4回）（未発表熊野古道古文書）

（この連載は副会長の野田敦美さんによるものです）

### 諸国旅人帳 子ども送り二例

前回、名張組黒田村から室郡大原村まで六才の市松を送り届ける「一札」のことを書いたが、病気で親をなくし子どもだけになってしまい、在所へ届けられる例が他にもある。

三木里村彦平三十九才と倅大蔵十才が、松阪へ出稼ぎに出た。同郡長嶋浦へ一ヶ月以上かかって八月七日に着き、父彦平が病氣になり十日落命、十一日「送り一札」を出札し、ひとりぼっちになった大蔵を庄屋元が送り出したようだ。約二五キロ余りの尾鷲へは十二日昼過ぎに着き、更に十一キロ先の三木里村をめざして通りすぎていつている。大へん忙しい送りである。

（その二）

これらとは異なった理由で送り帰されたこ土主子ども送りの例を次に書く。今回から原稿を読み下し、漢字仮名まじりで、送り仮名など入れた「書き下し文にする」

覚

御国奥熊野船津村

利平倅

二歳 年十一才

右の者、親利兵衛同道いたし、心願これ有る由にて西国巡礼に罷り出で候処、当村に於て親共を見失い難儀いたし候、折柄病氣に相成候に付き色々世話いたし遣し候得共、同様の義に付き何卒在所元へ送り届け呉れ候様に願ひ出で候、これに仍り村継ぎにて贈り出し候間、其の御村村の御助情を以て滞り無く御送り届け被れ候様に致し度く存じ候 已上

佐野組三輪崎村

庄屋 其作印

酉三月十二日

十五日昼着

佐野組三輪崎村

奥熊野船津村迄

右順路村継庄屋中

右の通り承知令しむ候 已上

佐野組大庄屋

角三郎平印

天保八年の文書である。

この「覚」の後には、「往来一札」が記載されていない。文中にもその件に



ついてはない。おそらく親が持っていたからで本人から在所や親の名などをききだしたのだろう。

この令は前の例のように、親が病死して一人ぼっちになったのではなく、「見失い」一人ぼっちになってしまったという。めずらしい例だと思ふ。

この親は「一札」がないのでわからないが、文中に「親共」とあることから、おそらく両親であろう。見知らぬ土地で不安なことであつたらう。そんな折に更に病氣になり、三輪崎村の庄屋元が色々世話してくれたが、一向に親からの届け出もなく見付かりもなく、病氣も治らない。不安がいつそう募つたことであろう。それで在所の船津村へ帰りたいので送り届けてほしいと願ひ出たのである。

それにしても、この親は一体どうしたのでしよう。心に期した願ひごとを持つて西国巡礼に出る信仰心の強い人であろうが、船津からいくつかの峠を越え、熊野川を渡り新宮を出て三輪崎まで来て、佐野、宇久井、那智と西国三十三ヶ所一番札所の青願渡寺も近くなつてきたのに、子どもを捨てたのだろうか。それとも単なる迷子になつたのか、事件にまきこまれたのか、気になるところである。

十一才の二歳が三輪崎村を出て、船津村まで送り届けられる途中の尾鷲までの約六十三キロ（以下距離は東紀州活性化事業推進協議会発行「熊野古道」パンフより）を三日程で来ている。一日平均約二十一キロである。高野坂、熊野川、浜街道の市木川、志原川の高波荒れを渡り、松本峠、大吹峠、逢神坂峠、二本島峠、曾根次郎坂太郎坂の甫母峠、羽後峠、三木峠、そして八鬼山のいくたの難所を又越えて帰ってきたのである。各順路村組の庄屋元の世話による人足の駕籠か歩行かですたためたのであるが、難所の多い道すじだけにかなり強行日程ではないだろうか。

前回の大原村へ送られてきた六才の市松の例でも、もうひとつの長嶋村から三木里村への送りにしても強行日程である。

各順路村組の庄屋元は次の村組へ早く送りこんで、自分の村での滞在時間を短くしているのであろう。



## 6 初の英語ガイド研修開催される

11月16日(土)に県観光連盟主催で熊野古道英語ガイド研修が尾鷲庁舎で開催されました。英語でのガイド研修は初めてで、県内各地から24名の方々が、この地域からは紀伊長島町から2名・熊野市から1名が参加し、講師の話熱心に聞いてみえました。

熊野古道が世界遺産に登録されるとたくさんの外国の方が訪れることが予想されます。英語以外にドイツ語・フランス語・中国語などのガイドも必要になってきます。皆さんのお近くに外国語でガイドが出来るような方が見えたら、事務局までご一報くださるようお願いいたします。

## 7 盲導犬と世界遺産候補熊野古道を歩こう

10月5・6日に「盲導犬と世界遺産候補熊野古道を歩こう」が行われ、県内から参加した視覚障害のある方9名が盲導犬5頭やボランティアの人とともに始神峠と馬越峠を楽しみました。今回の催しは補助犬の普及活動に取り組む「こもれびセンター(多賀輝宏代表)」により企画されました。盲導犬など障害のある方の自立を助ける補助犬について広く社会に受け入れてもらえるよう、また障害のある方も古道散策を楽しんでいただこうとするものです。

今回の主役である盲導犬は、舗装道路で車の往来、道路の段差、階段などを主人に知らせることは慣れていますが、古道では大変そうでした。でもご主人と同じように土、水、苔や木立など自然の感触を楽しんでいるようでした。



## 8 世界遺産HPリニューアル

紀北地域協議会のことも紹介した世界遺産への登録推進に関するホームページがリニューアルしました。世界遺産の登録までの流れ、世界遺産ってなに?の解説からこの地域の動きまでいろいろな情報を載せていきます。

こちらに載せられる資料・ニュースなどがあればお知らせください。

URLは、<http://www.pref.mie.jp/OKIKAKU/HP> の「みんなの力で熊野古道を世界遺産に!」のページで、世界遺産登録についてをご覧ください



## 編集後記

熊野古道世界遺産登録に向け実務的な作業が終盤を迎えています。平成12年12月に世界遺産暫定リストへという話に地域が驚いて以来2年が経過しようとしています、ついこの前のことのような気がしています。順調に行けば平成16年6月ということですね。あと1年半しかないですね。

最近、ツヅラト峠を守る会のイベントに行ってきました。その中でもやはり世界遺産登録は待遠しいと話されていました。イベントに参加して、「世界遺産になったから、お客様がたくさんみえる」というだけではなく、「地域の資産が世界の遺産となって。それをみんなで守って、いろんな人に見てもらいたいな。」と感じました。



11月23日ツヅラト峠花広場にて

発行元 世界遺産登録推進紀北地域協議会事務局  
〒519-3695  
尾鷲市坂場西町1-1 三重県紀北県民局企画調整部内  
電話 05972-3-3409  
FAX 05972-3-2130  
URL <http://www.pref.mie.jp/OKIKAKU/HP>